

「相手意識」について考える

－国語科と情報教育をつなぐキーワード－

- 1 国語科の目標が以下のように改訂され、「相手意識」が重視されるようになった。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、**伝え合う力を高める**とともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 2 しかし、「相手意識」という用語の内実は、曖昧としており共通理解されていない（定義されていない）。

例えば、以下の問いに明確に答えられる人はどのくらいいるだろうか。

「相手意識」とはどのような意識か？

「『相手意識』をもつ」とは、どのような意識をもつことか？

「わたしが～を伝える相手は、さんです。」のように、伝える相手が誰かをはっきりさせることと同じなのか、違うのか。

「『相手意識』が高まる」とは、具体的にどのような姿か？

「『相手意識』をもつ」と「『相手意識』を明確にする」とでは、何がどのように違うのか？

「『相手意識』を高める」ための手立てとはどのようなものか？

- 3 文部省（当時）の「小学校学習指導要領解説」（平成11年5月）では、「相手意識」について以下のような記述があるが、文脈から考えると、その内容がきちんと統一されて定義づけられているとは考えにくい。

聞き手も**相手意識**や**目的意識**をもちながら聞く必要がある。

第3学年及び第4学年では、**相手意識**や**目的意識**をより**明確に**もち、それらに応じて書く能力や・・・

身近な人々が読者であるため、**相手意識**も**具体的に**もちることができる。

相手意識が**はっきりした**場の状況や目的を意識することができるようになる第3学年及び・・・

聞き手も**相手意識**や**目的意識**を**高めながら**聞く必要がある。

提案1

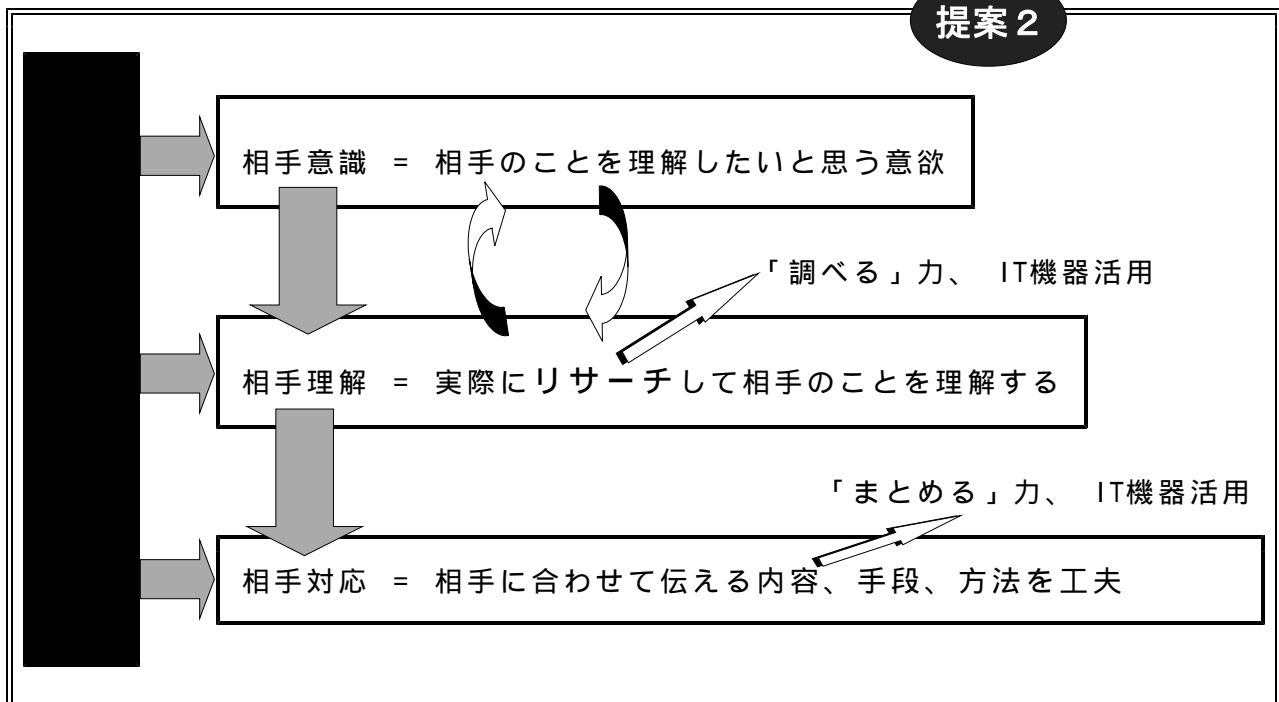
「相手意識」という言葉を、私は以下のように考えました。

相手意識・・・伝えたい相手が「どのような人なのか」を知りたい（理解したい）と思う気持ちや意欲。
（「誰か」ではなく、「どんな人か」です。）

「どのような」・・・ 形式的な属性 ex. 名前、学年、年齢、住んでいる所
の中身 立場や肩書き、等
内面的な属性 ex. 思いや願い、経験、既知 or 未知の事柄
「私」との関係性、等

- 5 「相手意識」 = 「意欲」と考えると、「もつ」こと、「高める」ことも理解しやすい。しかし、「相手意識」はそれだけ単独では機能しない。「伝える」行為の中では、以下のようなそれぞれの力がかかわりあっていると考えられる。

提案2



「相手意識」は、明確な目的意識があって高まる。

「相手意識」をもつことで、相手理解のための行動を主体的にとることができる。相手理解が進むと、「もっと知りたい」という意欲（「相手意識」）が高まる。相手理解のための活動を支える根底には、やはり目的意識がある。相手理解が十分に行えてはじめて、相手に合わせた表現の工夫ができる。相手に合わせた対応を意欲的に行うのも、はっきりとした目的意識があつてのことである。

あとはプレゼンでどうぞ。いろいろな意見をお待ちしています。

E-mail : mac@pl.coralnet.or.jp